

【談話】

2020年10月3日

菅政権による日本学術会議への政治介入に断固抗議する

京都地方労働組合総評議会
事務局長 柳生 剛志

菅首相は、日本学術会議が推薦した新会員のうち6人の任命を拒否した。学術会議は、日本の科学者を内外で代表し、「日本学術会議法」によって政府から独立して職務を行う特別機関である。その学術会議が公式に推薦した人物を排除することは、学術会議の独立性を無視する前代未聞の暴挙であり、断じて許すことは出来ない。

しかも、その理由を明らかにしないことで、政権に気に入る人物を選ぶという圧力を暗にかけ、菅政権の不透明さは、いっそうの「忖度政治」と恐怖政治を招くものであり、民主主義を掲げる国の政府にあってはならない重大問題である。

任命拒否された科学者は、安保法制や共謀罪を強行した安倍政権に対して批判的立場をとった人物も含まれ、日本国憲法23条が謳う「学問の自由」を踏みにじる恣意的な人事と言わざるを得ない。また、京都の科学者も任命拒否されたことは、滝川事件など戦前の暗黒時代を彷彿とさせる行為であり、京都の労働者・労働組合としても看過できない大問題である。

我々は、日本国憲法や民主主義の根幹を踏みにじる菅政権の暴挙に対し強く抗議し、菅首相による任命拒否の撤回を求めるとともに、本件に関する当事者はもとより、国民に対する説明責任を果たすことを強く求めるものである。

以上